

## 事故のこわさ

銀賞 平第一小学校 5年 石田 征士朗

最近、飲酒運転をしていたドライバーが下校中の子供たちの列にしょう突する事故がありました。ぼくはそのニュースを見て、自分たちが交通ルールを守っていても、運転手が守っていなかったら、ぼくたちもいつ巻き込まれてしまうかもしれないと思いました。このニュースを見て改めて交通ルールについて考えました。同じくバイパスの交差点や信号の無い交差点などでもこのような交通事故が起こっています。

ぼくが今の家に引っ越しをしてきた時、友達のお母さんが「ここの道路をわたる時に信号無しをする車がいるから、必ず左右を確認してからわたってね。」と近くの交差点のことを教えてくれました。その後、ぼくはその交差点で事故にあいそうになりました。それは学校からの帰り道、青信号で交差点をわたろうとした時、自動車が右からもうスピードで走ってきました。その時いっしゅん気絶しそうになり、初めて事故のこわさを知りました。この道路は交通量が多く、信号が多く設置してあるので、運転手は目の前の信号ではなく、その先の信号を見てしまっているからなのかなと思いました。

ぼくはこの経験から、この道路をわたる友達には、友達のお母さんに教えてもらったことと、自分に起きたことをこの道路をわたる友達へ話し、注意してわたるよう伝えています。しかし今回のことは、ぼくにも反省点があります。横断歩道をわたるとき、手を上げていませんでした。理由は、高学年になるにつれ、低学年の子と同じことをすることがはずかしくなってきたからです。信号無視は絶対にいけないことですが、わたる時に手を上げていれば運転手は気付いたかもしれないと思いました。

また、信号のない横断歩道では、歩行者は信号を頼りにすることはできません。しかし車には歩行者を守るルールがあります。「信号機のない横断歩道では、歩行者がいる場合は一時停止が原則で、わたる意志がないとはっきりわかる場合は、すぐに停止することができるような速さで通過する」というルールです。このことを調べた時に、去年は約二割の人しか守っていなかったことも知り、とてもおどろきました。ですので、歩行者は自分の身を守るためにも必ず手を上げて意思表示をしっかりとした方がいいと思いました。残りの約八割の人にはゆずりあう気持ちを持って運転してほしいと思います。

運転手さんはハンドルをにぎった時、「今日も一日、思いやりを持ち、安全運転をしよう。」と心がけてほしいです。そして歩行者もいつどこで事故が起こるか分からないという危険を予測した行動を取るよう心がけてほしいと思います。事故を起こらなくするためには、おたがいに交通ルールを守り、自分や家族、周りの友達の大切な命を守っていきたいと思います。

# 安全に道路をわたるには

銀賞 平第二小学校 5年 大宮 凰華

みなさんは、道路を正しくわたっていますか。急いでる時、だれもいない時、約束をやぶって、まちがった行動をしていませんか。もし、危険な行動をしていた人がいたら、きちんと注意できますか。どんな事があっても道路は、安全にわたらなくてははいけません。それがどんなに危険かを一緒に考えてみませんか。

あなたは、道路の反対側に行きたいとします。少し歩くと、横断歩道があります。すぐそこをわたれば目的地です。でも、そこには、横断歩道はありません。さて、あなたはどうしますか。横断歩道をわたれば、遠いですが安全です。すぐそこをわたれば、近いですが危険です。どちらかを選ぶことになるとまよいますよね。でも、これは横断歩道を選んだほうが正解です。確かに近いほうが早いです。ですが、危険がたくさんあります。車が来ていなくてもだめです。車が見えなくても危険はあります。とつぜん車が出てくるかもしれません。だからきちんと横断歩道をわたしましょう。どんなに急いでいても、車にひかれて、けがをしてしまったら、あともどりはできません。きちんと横断歩道をわたしましょう。

でも、これだけいってもルールをやぶる人がいます。では、どうしたら安全に道路をわたってもらえるか考えてみましょう。

まずは、危険という事を覚えてもらいたいです。横断歩道をわたらないと、車がとつぜん来たときに、車に乗ってる人が急ブレーキをかけてもとまらなくなり、事故をおこしてしまうことがあります。ですから、横断歩道をわたしましょう。横断歩道は、車が急に來ることが少ないと思います。信号があるので、急にとまることもすくないです。

次は、ルールを守るといことです。今書いたとおり、どんな理由があっても、必ず横断歩道をわたってください。あと二つ守ってほしいルールがあります。右、左、右を見ることです。いくら信号が青でも、もしかしたら車がとつぜんくるかもしれません。きちんと再確認の右、左、右をするようにしましょう。

そしてもう一つのルールは、歩きスマホをしないことです。歩きスマホは、とても危険です。歩きながらスマホをやっていると、どこを見ているか分からないので、車にひかれたり、通行人にぶつかったりする可能性があります。もしそうなったら、けがをするし、人の迷惑になります。ですから、やめましょう。

最後に、信号無視をしないことです。これはかなり危険です。信号を無視して車にひかれたりすることは多いと思います。みなさんも一回くらいは、車が通っていないから行こうかなと思ったことがあるのではないですか。ちなみに私はあります。でもこれは、本当に危険です。いくら車が通っていないなくても、とつぜん車が来てしまったらとまれません。だから、信号無視は、必ずやめましょう。

これらの四つ、覚えてもらえましたか。「一、横断歩道をきちんとわたる」「二、右、左、右をきちんとみる」「三、歩きスマホをしない」「四、信号無視をしない」この四つをまもれたら、けがや事故がへると思います。みんなでこのルールを守っていきましょう。そして、安全な生活ができるようにしましょう。

## 歩行者とドライバーのゆずりあい

銅賞 平第一小学校 5年 庄司 遥香

この作文を書こうと思ったきっかけは、二年生のときに自転車とぶつかったけいけんがあるからです。集団下校中に四人で横断歩道を歩いていたら真横から中学生くらいの人に乗った自転車が坂道からいきおいよく走ってきてぶつかりました。そのときは予想外でとつぜんのことだったのでよけることができませんでした。とてもこわい思いをしました。その時はすりきずで少しの出血だったので学童の先生に消どくをしてもらうだけで、さいわいすみました。そのことからいつ、どこで、だれが交通事故にあうか分からないのでひごろから交通ルールや安全に気をつけなければならぬと実感しました。

交通ルールを守って安全に過ごすためには歩行者もドライバーもそれぞれが気をつけなければならぬと考えます。ドライバー側は歩行者ゆう先という決まりを守ることが大切だと思います。たとえ、ドライバーが急いでいたとしても、ルールを守ることで交通事故を防ぎ一人でも多くの命を守ることができるのだと思います。ぎゃくに歩行者側は横断歩道ではないところをわたったり、車と車の間を通ったり、ときどきそのような歩行者を見かけますが事故になるのではないのかとドキッとします。

最近「あおり運転」という言葉をよく耳にするようになりました。あおり運転は車間距離を極端につめて威圧をしたり、はば寄せや急停止で運転を妨害したりなど特定の車両に意図して、いやがらせこういをする、きけんなこういです。もしも、自分がお父さんやお母さんの車に乗っていて高速道路などであおられたら私はこわくてなってしまうと思います。そんなことが起こらないように、ドライバー一人一人「自分は大丈夫」とゆだんしないことと、相手への思いやりの心が必要だと思います。

「あてにげ」という言葉も聞きますがそれには怒りを感じます。なぜなら車や自転車、バイクでも同じですが人や相手の車などにぶついたり、けがをさせたりするきけんなこういをしたのにやってしまった人はそのままにげてしまうからです。びっくりした、つかまりたくないなどいろいろとあると思いますがやってはいけないことをやってしまったら、なかったことにはできないので、しっかりとあやまり、つぐなうべきだと思います。

私はニュースや新聞を見て、私と同じ小学生やもっと小さな年れいの子どもが交通事故にあった内容を家族で話し合います。私のように軽傷ですんだ人、重傷になってしまった人、もしくは亡くなってしまった人などさまざまです。そのニュースや新聞を見たときはとっても悲しい気持ちになります。交通事故は本人、家族、友達など多くの人が悲しみます。一つでも交通事故を防ぐことができ、へるといいなと思います。交通事故の一つでも防ぐにはドライバー側も歩行者側も交通ルールを守り、周囲に気をつけることが大切です。どちらか、かたほうだけでは防ぐことができません。歩行者側はドライバーが必ず止まってくれるとはかぎりません。青信号だから大丈夫、横断歩道だから大丈夫などのゆだんはけしてしてはいけません。もしも自分がしょうらい車を運転するようになったら、歩行者へのゆずる気持ちや思いやりの心をわすれずに運転したいと思います。そして今は自転車に乗っている時、歩いている時、どちらの場面も「お先にどうぞ」というゆずる心と交通ルールを意識して過ごしていきたいと思います。

## 交通事故を起こさないためには

銅賞 平第三小学校 5年 白岩 統真

ぼくは今回交通事故を起こさないためには減らしていくためにはどうしていけばよいかを考えました。このテーマにした理由の一つはぼくの一番上のお姉ちゃんが車を運転するようになったのと、二番目のお姉ちゃんも今年運転免許を取るということで身近で車を運転する人が増えたからこそ考えられることもたくさんあるのではないのかと思ったからです。一番上のお姉ちゃんは運転免許を取ってから一年半がたとうとしていて、まだ違反もしていないし車をぶついたりということもありません。最近になってからぼくのサッカーの迎えを一番上のお姉ちゃんが来てくれることが多くなったのですが、もう夕方だし暗くなってからの運転はちょっとこわいと言っています。ライトをつけていても歩行者や自転車を運転している人が見えづらいので今までどおり気をゆるめないでまわりの様子を確認をしっかりと安全に事故なく違反もしないで運転してほしいと思います。それと、ぼくが最近自転車に乗るようになったこともこのテーマにしようと思った理由の一つです。ぼくが自転車に乗るのは家の近くだけで、まだ道路を走ったことはありません。登下校などに道路を走っている自転車をよく見ますがヘルメットをしていないのにフラフラしながら運転していたり、スマートフォンを見ながらとかイヤホンをつけて運転している人を見ることがあり、それはいくら車を運転している人が注意していてもとても安全とは言えないのではないのかと思います。車を運転する人はもちろんだけど自転車に乗っている人だって自分の命を守るためにも交通事故にまきこまれないためにも安全に運転し違反をしないことを心がけてほしいと思うし、ぼくもこれからもっとたくさん自転車の練習をし周りを見て運転できるようになったら道路で安全に走ってみたいと思っています。そしてその他にもぼくがこのテーマに決めた理由があります。つい最近いわき市でとても残念で悲しい交通事故のニュースがありました。ぼくのお姉ちゃんと同じくらいの年れいの人が友達と何人かで車で走っている時に交通事故にあい、亡くなってしまった人がいるとてもショックでしよげきを受けたニュースでした。この交通事故の原因は定員オーバーやスピード違反という事で色々な原因がありました。ぼくのお姉ちゃんの知りあいの人でその事故に立ちあったという人がいてそのひとの話によるとなんとも言えずひさんなじょうたいだったようです。そんな話を聞いてより悲しい気持ちが大きくなりました。お姉ちゃんと同じくらいの年れいの人たちが命をおとすような大きな事故をおこしてしまいその人たちの家族や友人や先生など周りの人たちがどんな気持ちだったのか色々考えてみるとぼくたちが思っているよりももっとショックで悲しくこの先一生忘れられない出来ごとだったのではないかと思います。

次にぼくはお年寄りによる交通事故が多いということにも注目してみました。その中でも一番ぼくが印象的だったニュースが二千十九年に起こった池ぶくろぼう走事故です。この事故はお年寄りのおじいちゃんが運転する車がぼう走しながら交差点へ入り十一人もの人を次々とはねたという大きな事故です。その事故にあった被害者の中には、お母さんと娘の母子二人がいたそうです。その母子二人はこの事故で死亡し他にも九人ものけが人がでたというニュースでした。亡くなってしまった母子二人のお父さんがテレビで泣きながらインタビューを受けている姿を見た時、とても悲しい気持ちになりました。ふつうに生活していたたまに横断歩道を歩いていただけなのに急にしゅんの中にこのような大事故にまきこまれてしまい、しかも命をおとしてしまったのだからこのお父さんも周りの家族や知り合いだってとてもやるせなく悲しくつらい思いをしたと思います。お年寄りの事故がこんなに多いのにどうしてたくさんの人が車を運転しているのか。それはきっと、ぼくたちの生活の中でとっても便利で役に立つものなのでかたんに手放すことはできないのだと思います。若い人もお年寄りの人もこんなに便利なものを利用しているのだから一人一人がもっと安心して生活できるように安全第一で違反はぜったいにしないように利用をしていければ交通事故をもっと減らせるのではないのかと思います。

# 意思表示の大切さ

銅 賞 平第一小学校 6年 長谷川 慶太

ぼくが登下校をしているとき、信号の無い横断歩道を歩行者が渡ろうとしているのに止まらない車を見かけます。

横断歩道は、歩行者がいる場合は止まって歩行者を渡らせるのが当たり前で、これは運転者のマナーではなく義務です。車を運転している人なりに、急ぎたかった、前の車も通過したから自分もそのまま通過したなどといった理由があるかもしれませんが、そのような言い訳は通用しません。

でも、ぼくたち歩行者が気をつけなければならないことがあると思います。歩行者は横断歩道を渡りたい時に、手を挙げるなどして運転手にサインを送るほうが良いと思います。なぜなら、歩行者が「渡りたいです」という意思表示をすると、車も止まってくれるというデータがあるからです。それに応じて運転手もサインを送るなど、少しでもこのような意思表示をおたがい行えば良いだけの話だから学校などでぜひもっと教えるべきだとぼくは思います。

この前インターネットで、外国の人が日本に来て小学生のことを横断歩道で渡らせてあげた後におじぎをしてくれたことを感激したということがのっていました。日本にはこういう文化があるので、このような文化はどんどん続けていくべきだと思います。

そして、結局交通事故を防止するには、運転手、歩行者の意思表示が大切ということ、おたがいに気をつけないと交通事故は無くならない。だから、ぼくも今度から横断歩道を渡るときには、手を上げてハンドサインを運転手に送るなどして、渡る意思表示を運転手に合図をしたいと思います。そして、渡らせてくれたらおじぎも忘れずにしたいです。あと、大人になってから、自分が車を運転するようになったなら、横断歩道などの歩行者優先の場所では、歩行者を優先してあげたいです。そして、このようなことをみんなに伝えていくことで交通事故が少しでも無くなれば良いと思います。

# 事故をなくす未来へ

佳作 草野小学校 5年 松本 紗愛

最近、事故がふえています。事故が起こる理由はたくさんあります。その理由の一つは、飲酒運転です。飲んだ後は運転をしていけないのに、運転をしている人がいるから、よっぱらったりして事故になります。これも、事故が起こる理由の一つです。最近こういう人がふえてきているので、飲んだ後は絶対に運転をしないようにしましょう。そういう事故で亡くなってしまう人もいますので、自分では大丈夫だと思っても、みんなにめいわくをかけるので、絶対にやめてほしいと思っています。

二つ目は、スマホです。スマホをいじりながら運転をしている人もいれば、電話をしている人もいます。最近私は、スマホをいじったりしながら運転をしている人を、見かけたりします。スマホに夢中になってしまって、事故になる可能性があるので、だめだと思います。

三つ目は、あおり運転です。あおり運転はいろいろな種類がありますが、全部きけんです。その中でも急ブレーキもあぶないです。急ブレーキで、後ろの車がついとつするということもあります。今までに、あおり運転でつかまった人は何人もいます。回りの人にもめいわくをかけるので、絶対にやめましょう。また、無理な割り込みもあぶないです。無理な割り込みをすると、ぶつかってしまうかもしれません。ぶつからなくても、本当にぎりぎりだと思います。また、正当な理由のないクラクションをならすのは、絶対にやめましょう。急にならされたら、みんなびっくりしてしまいます。正当な理由がないのに、クラクションをならしたら、トラブルになる可能性もあります。急ブレーキや、無理な割り込み、正当な理由のないクラクションをならしたりするのは、トラブルになる可能性があるので、絶対にやめましょう。

横だん歩道をわたろうとしている歩行者がいる時は、一時停止して、横だん歩道を横だんしようとしている歩行者を、わたらせてあげましょう。そうしないと、歩行者が横だんできません。これからは、信号のない横だん歩道でも、運転者は一時停止して、歩行者を横だんさせてあげましょう。私も学校に行く時、朝はほごしゃの方が見守ってくれるから、安心して横だんできるけれど、帰りは見守ってくれる方がいないから、スピードを出している車もあるので、少しこわいです。また、横だんする時にも少し不安でこわいです。私は、歩行者が横だんする時に、曲がってくる車が急ブレーキになったり、交通事故になりそうなところを何回か見たことがあるので、横だんする私達も、運転者も注意をしてほしいと思います。

ちゅう車場から出る時にも、止まってくれない車が多いので、私達もなかなかちゅう車場の出口から出られません。みんなそういったことでも困っているので、これからはちゅう車場から出る車のことも考えながら、運転をしてほしいと思いました。もし、ちゅう車場から出てくる車を見たら、家族に声をかけてみたいと思いました。自分達がみんなにやさしくしてあげたら、今度はぎゃくに私達がやさしくしてもらえるということを思いながら、声をかけてみたいと感じました。

このように、横だん歩道を横だんする歩行者のみんなには、横だんさせたり、ちゅう車場から出る車を入れさせてあげたりしてあげるのも、ゆずりあいの運転だと思います。これからは、運転者のみなさんは、事故などを起こさないで、ゆずりあいの運転をしてほしいと思っています。みんながゆずりあいの運転をすれば、事故はへって、大切な人を亡くすことはへっていき、ゆずりあいの運転が続けば、大切な人を亡くすことはなくなって、平和な暮らしになると思います。

もし私がしょう来車を運転したら、ゆずりあいの運転をしたいと思っています。また、飲酒運転や、あおり運転、スマホをいじったり、電話をしたり、きけんな運転はしないようにしたいです。

# 事故のない安心安全な国

佳作 植田小学校 6年 増田 謙音

ぼくは、事故のない安心安全な世の中にしたいです。そんな世の中にするためには、車側も歩行者側も一人一人が気をつけて、自分勝手な行動をしなければ事故もなくなると思います。

最近あおり運転など道路で危険な運転をしている人のニュースを見ますが、どうしてそんな危ない事をするんだろうとってしまいます。そういうニュースがでてくると、こわいな、被害にあった人は、大丈夫かな、亡くなった人達の家族はどういう思いなのかなと考えて悲しい気持ちになります。時には車だけではなく、歩行者側もあぶない時があります。前に家族で出かけた帰りの車の中でビックリした時がありました。それは歩行者がとつぜんとび出してきて、道路を渡っていったのです。ぼくは、

「あぶないな。」

とつぶやいてしまいました。お母さんもとてもビックリした様子でした。ぼくは、歩行者もあぶない人達がいるんだなと思いました。歩行者もきちんと道路を見ないで渡ったり、イヤホンをして車がきても気づかない人達もたくさんいるので車も歩行者も気をつければ事故も減らせると思います。

飲酒運転もこわいなと思います。お酒を飲んでいるのに、どうして運転をしてしまうのだろう、どうしてお酒をがまんできなかつたんだろうといろいろと考えてしまいます。ぼくも大人になったらお酒を飲むことがあると思います。でもきちんとマナーを守りたいと思います。

車や人だけではなく、電車や自転車でもあります。自転車がスピードのだしすぎで車にぶつかったり、スマホを見ながら自転車を運転してぶつかったりしている事故があります。自転車のあおり運転もあります。ニュースで見た事故は、イヤホンをしていて、ふみきりがなっているのに、自分はふみきをわたりきっているとかんちがいをして電車にひかれて亡くなった事故でした。ぼくは、あぶないな、イヤホンをしながら歩くところこういうことになってしまうんだな、危険だな、と思いました。歩いている時には、イヤホンをせずにまわりの音をきちんと確認しながらマナーを守って外に出たいと思います。イヤホンをしていると、車や自転車がクラクションをしていると気づかないし、まわりから変な目で見られてしまいます。前を見ながらイヤホンをしていても事故になる危険がないとも言いきれません。イヤホンは、家にいるときや歩かない所につけた方がいいと思います。こういうことが少なくなってきたら、事故も少なくなって安心安全の世の中につながるのかもしれない。なので自分も気をつけたいと思います。

事故はいつ、どこで、だれがおこるかは分かりません。ですが、気をつけていればふせげる事故もたくさんあると思います。一人一人が思いやりをもった行動をして事故が少しでも少なくなればいいなと思います。